

# たか っ え キツネ山1号墳と高津江

2015. 3. 3~15  
福知山市教育委員会

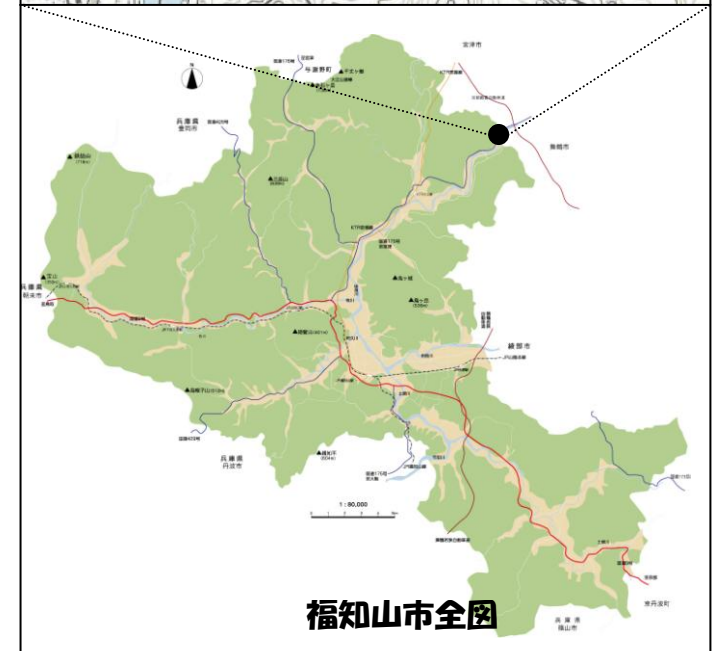
## 1 はじめに

キツネ山1号墳は福知山市と舞鶴市の市境にあたる大江町高津江に位置し、由良川下流域左岸の南向きに伸びる見晴らしのよい丘陵上に立地します。

現状はヒノキの植林地でしたが、平成24年10月に築堤に伴う土砂採取工事が当該地で始まり、現地保存が難しくなったため、周辺部を含め試掘調査を行うとともに、同年12月17日から翌25年1月29まで1号墳の発掘調査を実施しました。

調査の結果、1号墳は墳丘が失われているものの、下半部には横穴式石室が良く残っており多数の出土遺物が確認できました。また、周辺部での試掘調査により、1号墳北側丘陵上にも3基の横穴式石室を有する古墳(2~4号墳)が確認でき、全部で4基の古墳から形成される古墳群であることもわかりました。

今回の展示では、豊富な出土遺物をもつ大型の横穴式石室のキツネ山1号墳を紹介するとともに、大江町高津江という地域でこれらの古墳群がつけられた背景に迫ってみたいと思います。



## 2 調査の概要(1号墳)

1号墳の調査前の現状は、高まりのある地形の上に露出した大石2個が植林地に散見されるだけで、墳丘も明確ではないため、はじめに古墳の残り具合を確認するため試掘を行いました。

試掘の結果、墳丘は大半が失われているものの、下半部には横穴式石室が残っていることが判明したので、本発掘調査を行い、遺構と遺物の検出に努めました。

調査は、土砂採取が間近に迫る中、そして、冬の降雪等悪天候に阻まれる中で進められ、平成25年1月25日に、その成果を報道機関に発表し、同月28日には地元説明会を開催し、同月29日に全ての調査を終了しました。



キツネ山1号墳調査前状況



キツネ山1号墳試掘状況



石室内に崩れ落ちている石の撤去作業



キツネ山1号墳石室内調査状況



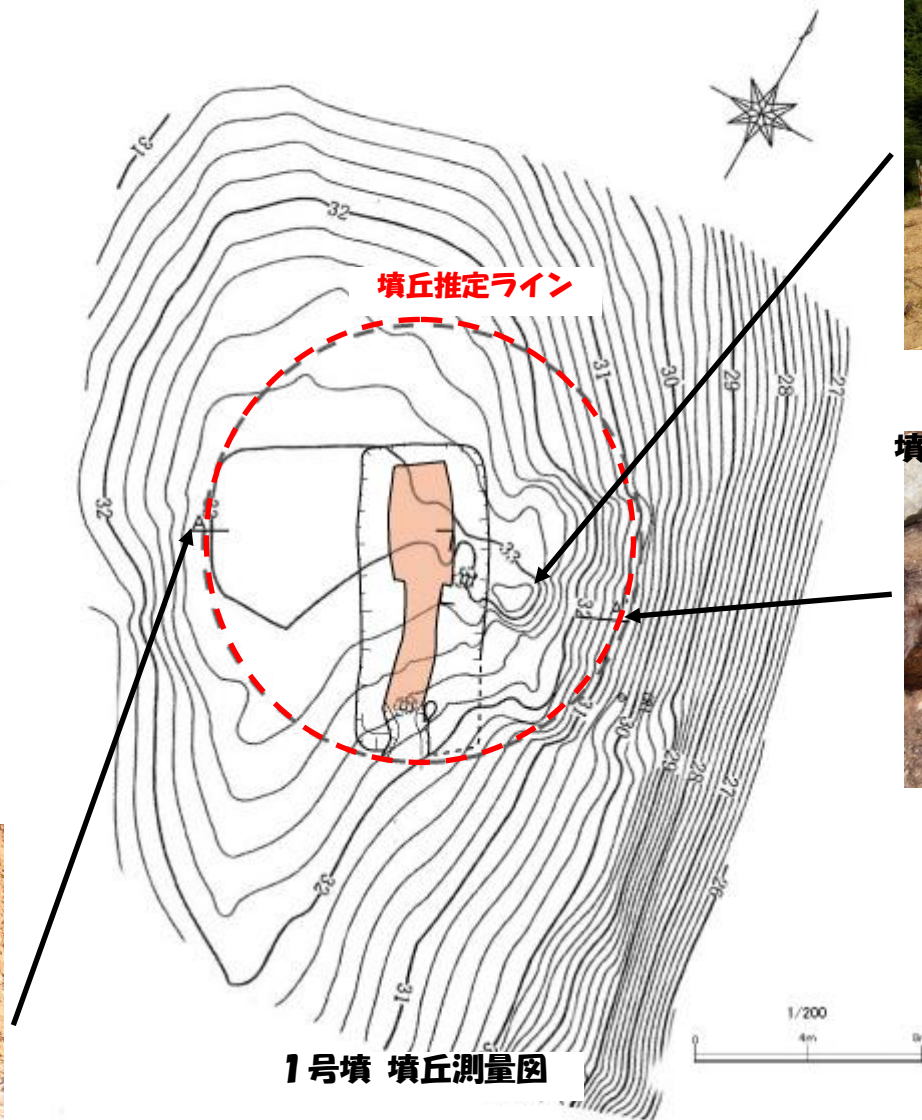
地元説明会

### 3 調査の成果(1号墳)

#### ○墳丘

残存する墳丘と調査地区内の土層断面の観察により、墳丘の規模は直径15m前後の円墳と考えられ、現在の丘陵頂部の平坦部の東西幅をほぼ覆う規模であったと推定できます。

また、墳丘は地山(基盤土)の上に盛土を行って構築されていること、石室は地山を掘り込んで下半部の石材を設置している様子がありました。



残存する墳丘



墳丘土層断面



1号墳 墳丘土層断面図



横穴式石室全景

## ○埋葬施設

開口部を丘陵南向きに開けた横穴式石室で、玄室長4.25m、玄室幅1.95～2.3m、羨道長4.1m、羨道幅1.2～1.8mを測る大型の石室です。

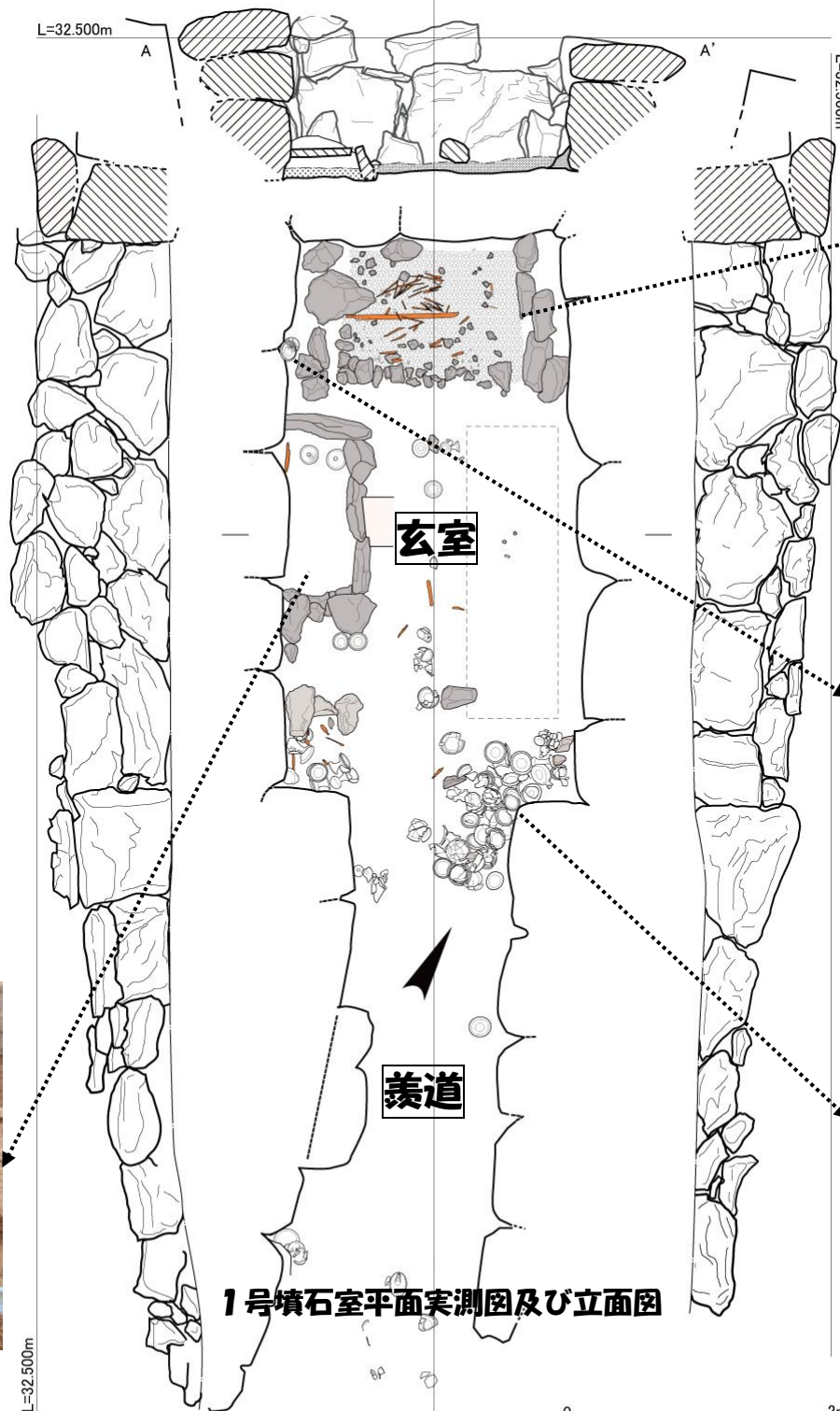
石室形態は玄室と羨道が区分される両袖式と呼ばれるタイプです。

石材はやや軟質の花崗岩を用い、床面は黄褐色の土が貼られていました。

石室内には、奥壁前に礫敷の埋葬施設、玄室西側に小型の箱式石棺、玄室東側に木棺が設置されたと考えられ、多量の土器類、金属器類、玉類が出土しました。



箱式石棺



奥壁前礫敷埋葬施設



土器の中に置かれた玉類



玄室左袖部 土器出土状況

## ○出土遺物

1号墳で確認した出土品は500点以上を数えます。その全てが石室内より出土したものであり、土器類は約110点、玉類は約340点、金属器類は約40点など、その種類の豊富さと量の多さには大変驚かされます。

### ・土器類



はそう



高坏



平瓶



甕



环



高坏

### ・玉類



鉄刀

### ・金属器類



耳環



耳環



鉄鏃



槍

## ○調査成果のまとめ

- ①確認された1号墳は、墳丘の大半が失われていますが、埋葬施設である大型の石室が残っており、その規模から地域の有力者の古墳と考えられます。出土品の年代観より古墳時代後期に属し、6世紀後半に築造され、その後、7世紀前半までに数回の追葬が行われたものと思われます。
- ②横穴式石室内に副葬された豊富な副葬品は、埋葬された人の生前の地位と豊富な経済力を伺わせるもので、由良川を介する重要なポイントを押さえた集落の首長級の古墳と位置付けることができます。具体的に推定される母集落は、古墳の眼下に眺めることのできる桑飼上遺跡や高津江遺跡をあげることができます。

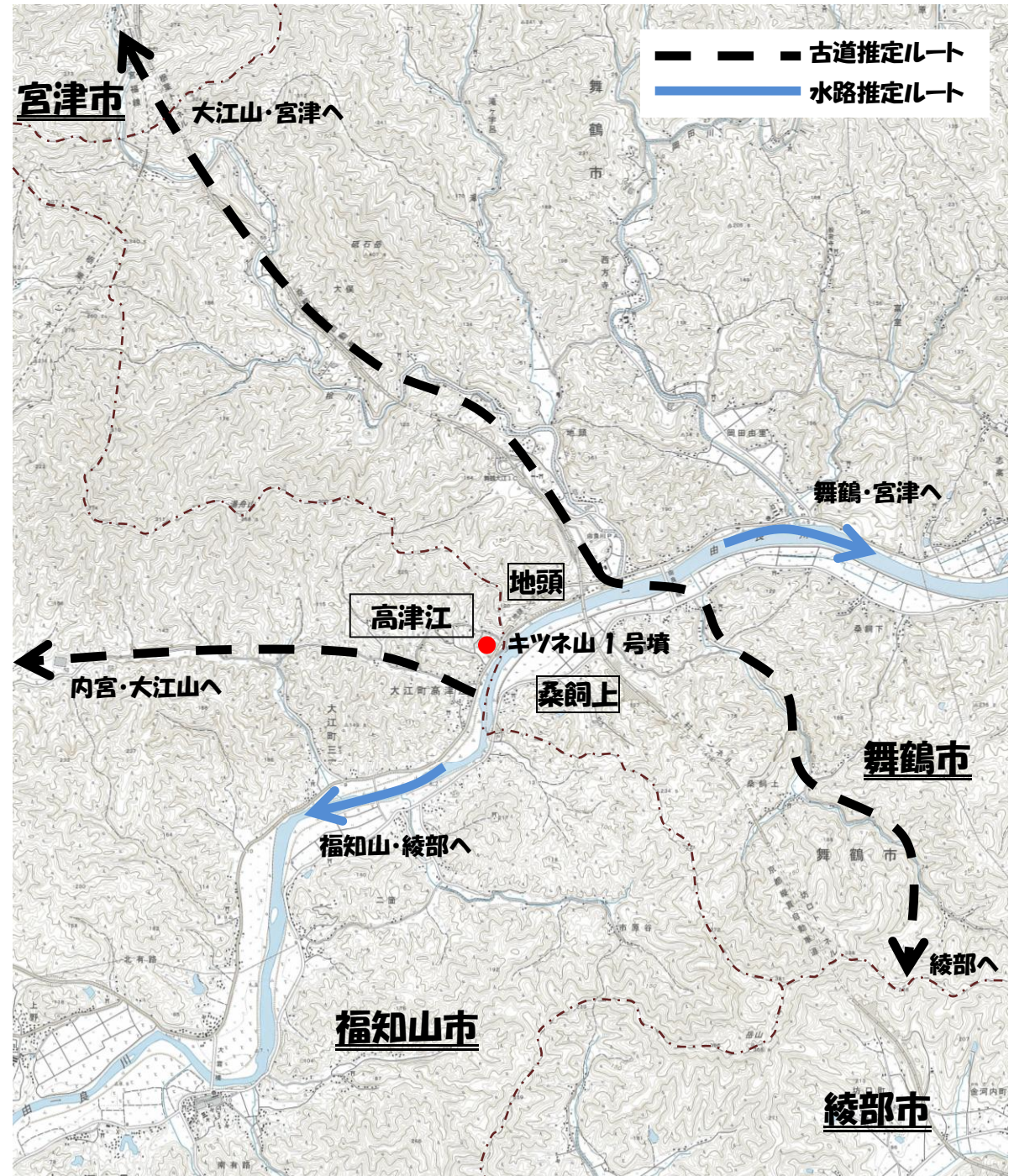
## 4 高津江地域の水路と陸路について

「高津江」の津は港を意味し、古くから由良川を利用した船着場として位置づけられていたものと考えられます。また、高津江より内宮・大江山を經由して宮津へ至る道も伝えられています。

一方、隣接する舞鶴市の地頭と桑飼上も、由良川に面しているとともに大江山を經由して宮津と綾部を結ぶ古道が伝えられています。中世には地頭・桑飼上は岡田荘に属しており、高津江も同じく岡田荘に属していたという説もあります。

こういった中で、「高津江」・「地頭」・「桑飼上」を一つのまとまった地域として考えてみると、右図で示すとおり、当地域は水路・陸路がともに利用できる交通の要所として位置づけることができます。

キツネ山1号墳の発掘調査で確認された大型石室と豊富な出土遺物は、当地域の重要性と有力者層の存在、そして他地域との交流が古代からあったことを示すものであり、これまで不明であった当地域の歴史と他地域との交流について解明をしていく上で、欠かすことのできない貴重な資料です。



高津江・地頭・桑飼上からの水路と陸路